

キャンパス

●CONTENTS●

1. 学位記授与式・新学年暦・春のガイダンスと健康診断
2. HOT LINE /就職・短期留学・平成7年度国庫金等補助金交付状況/MY VOICE
4. CAMPUS LIFE /キャンパス見学会・学生海外研修報告会・クラブ活動報告
6. 平成8年度卒業研究テーマ・身近な鉄原・教員の学外研究助成金・受託研究等について
8. INFORMATION /図書館・人事・学位取得

編集・発行 大同工業大学広報室 〒457 名古屋市南区滝春町10-3 TEL052-612-6117(直)

学位記授与式

平成8年 3月24日(日)

学生生活の有終の美を飾る今年度の学位記授与式式典の日程は次のとおりです。
 なお、当初の予定とは日時が異なっていますので、ご注意下さい。



昨年度学位記授与式風景

- ◆日時 平成8年3月24日(日)
午前10時より
- ◆場所 名古屋市公会堂
(名古屋市昭和区鶴舞公園)

平成8年度 新学年暦

平成8年度より、セメスター制を念頭に置いた新しい学年暦(年間行事)を編成します。新学年暦のベースとなる考え方は、①前期・後期それぞれの授業回数を確保し、教育の充実を図ること。②夏季休業前に前期試験を終えて、学習効果の向上を図ること。(前期追・特迫・再試験は夏季休業を経て実施するため、長期休業が学力回復の好機会となります。)③短期留学や学生行事の開催に無理のないものであること。にあります。詳細は左表のとおりです。

■平成8年度 新学年暦■

行事名	日付
入学式	8年4月6日
前期授業開始	
在學生	4月3日
新入生	4月9日
開学記念日	5月2日に振り替え実施
前期授業終了	7月10日
前期試験期間	7月18日～31日
夏季休業期間	8月1日～9月30日
短期留学	
ヨーロッパコース	8月3日～24日
アメリカコース	8月15日～9月9日
前期追・特迫・再試験	9月24日～30日
後期授業開始	10月1日
後期授業終了	9年1月27日
後期試験期間	1月28日～2月10日
学位記授与式	3月19日

必ず出よう!

春の ガイダンスと 健康診断

学生部が中心となり、新年度の開講に向けて、着々と準備を進めています。受講や就職活動、その他学生生活全般にわたって大切な案内を行いますので、必ず出席して下さい。大まかなスケジュールは右表のとおりとなっています。詳細は掲示等にてお知らせします。

■日程表■

	ガイダンス	健康診断
93M	3月28日(木)午前	3月29日(金)午前
93C・A	3月28日(木)午前	3月29日(金)午後
93E	3月28日(木)午後	3月29日(金)午後
93D	3月28日(木)午後	3月29日(金)午前
94M	3月29日(金)午前	4月1日(月)午前
94C・A	3月29日(金)午前	4月1日(月)午後
94E	3月29日(金)午後	4月1日(月)午後
94D	3月29日(金)午後	4月1日(月)午前
95M	4月1日(月)午前	4月2日(火)午前
95C・A	4月1日(月)午前	4月2日(火)午後
95E	4月1日(月)午後	4月2日(火)午後
95D	4月1日(月)午後	4月2日(火)午前

就職

1. 昨年の就職状況

“氷づけ”とまで言われた今年の就職戦線。景気低迷と企業の業績不振、それに伴う雇用調整やリストラチャリングの進展で、企業は必要とする人材のみを厳選する結果となりました。一方、大手企業の採用抑制に反し、中小企業の人材獲得の動きに根強いものがあつたことも事実です。

本学の就職状況をみると、1月15日現在で、求人社数は前年対比5.5%減の2527社、内定率は96%となっています。前年並みで、他大学とほとんど差がありません。未内定者には、公務員や教員の結果待ちも含まれていますが、現在就職指導部ではその対応に最後の一踏ん張りを行っているこの頃です。

2. 進路は自分を知ることからスタート

さて、本年はどうでしょうか。景気の先行きは極めて不透明であり、大きな好転は期待できません。雇用環境も昨年と変わらないとの見方が一般的です。こうした状



況下では、早めに就職対策に取り組むことが必要不可欠です。11月末に実施した、適性検査と第1回就職ガイダンスには大半の学生が参加したのは、就職問題に対する関心の強さを示しています。その席上進路調査をお願いしましたが、卒業後、どのような道を歩みたいのか、ご家族の方々とも十分相談し、進路を明確に定めるようにして下さい。最も大切なことは、自分自身がどのような性格を持ち（どのような適性を持ち）、どのような進路に進みたいのか、今後の長い人生設計の中でじっくり考えて頂きたい。進路はまず、自分を知ることからスタートすることを肝に命じてほしいと思います。

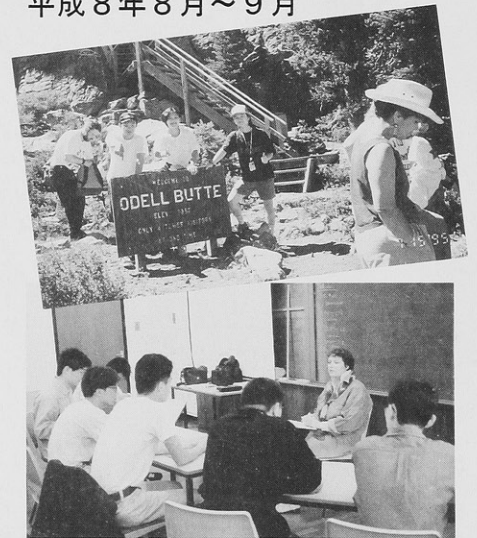
3. 本年の就職指導スケジュール

参考までに、年間の就職指導スケジュールを掲げました。就職模擬試験をいくつか計画していますが、これは自分の実力（強み・弱み）を知るためのものであつて、大学のためにするものではありません。全員受験するよう希望します。さらに、来春には、新たに公務員受験集中講座を予定しています。これは、民間企業受験にも大いに役立つカリキュラムとなっていますので、多くの学生の受講を期待しています。

なお、現2年次生の受講も勧めたい。では、出発！

第18回 短期留学

平成8年8月～9月



■アメリカコース■

8月15日－9月9日（26日間）
オレゴン大学で約3週間の研修、ポートランド見学。

■ヨーロッパコース■

8月3日－8月24日（22日間）
イギリス・ノッティンガム大学で約3週間の研修、ロンドン見学。

*参加申込期間：平成8年1月22日から4月5日まで

*授業科目名：国際事情
〈申込・詳細問い合わせは国際交流センターへ〉

■平成8年度就職指導スケジュールの大綱■

月 日	内 容
平成7年	
11月下旬	就職適性検査および第1回ガイダンス (本年度就職状況、進路調査)
12月上旬	就職模擬試験（一般常識）
12月中旬	第2回ガイダンス（理事長講話、先輩体験談、企業講師「こういう人材がほしい」、就職の手引・企業一覧配布）
平成8年	
1月下旬	就職能力試験（言語・数理）
1月	進路調査集約
2月下旬	公務員集中講座（3コマ/日×7日間＝21コマ）
4月上旬	第3回ガイダンス（最終希望企業調査）
4月	就職希望企業確認指導
4月	就職作文試験
4月中旬	求人申込書の発送
4月中旬	就職登録票および就職斡旋申込書の提出
4月下旬	就職登録票整理および各学科別企業調整
5月上旬	各学科別企業調整結果発表
5月上旬	第4回ガイダンス（面接心得）
6月上旬	求人申込書の受付開始
7月上旬	求人申込書の学生への提示開始

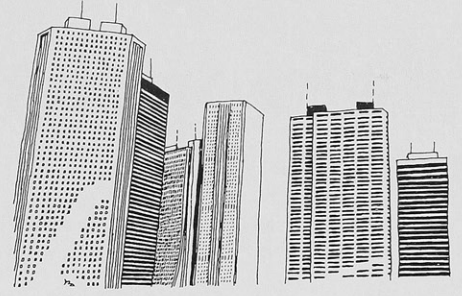
平成7年度 国庫金及び愛知県補助金の交付状況

平成7年度の国庫金および愛知県補助金の交付状況をお知らせ致します。

科学研究費では、13件が採択されました。その内容は、次の通りです。

まず、「国際学術研究」として小野教授の「塑性加工プロセスにおける省エネルギー化に関する研究」の1件。次に「試験研究B」として酒造助教授の「非弾性地震応答性を考慮した鋼変断面ラーメン部材の断面構成法の開発」の1件。また、「一般研究B」として中井教

授の「レーザー誘起原子放出を用いた表面微量欠陥の定量法の確立」と青山助教授の「高強度・高じん性オーステンパ球状黒鉛鋳鉄の開発と構造部材への適用に関する研究」の2件。そして、「一般研究C」として①加藤（容）教授の「チタン合金の高温疲労強度に及ぼすショットピーニングの影響」、②岩間教授の「高温超伝導ウィスカーを用いた散逸過程に関する研究」、③事口教授の「腐食環境下における鋼の初期き裂の発生機構と、き



裂進展特性に関する研究」、④水澤教授の「不完全接着された積層複合板の剥離進展挙動に関する研究」、⑤下島教授の「山体への雨水浸透に関する観測的研究」、⑥西堀教授の「磁性流体継手のパルス幅変調によるトルク制御」、⑦瀬川教授の「正則関数及び調和関数の境界挙動の研究」の7件。

最後に、「奨励研究A」として大嶋助教授の「ピエゾセラミックスアクチュエータを用いたロバストな制振制御に関する研究」と松浦（均）講師の「被援助者の視点による『援助—被援助的人間関係』の心理的過程の解明」の2件でした。

次に、私立大学等経常費補助金特別補助は、高度化推進特別経費として、五島教授のアーヘン工科大学での「歴史的建造物の保存に関する調査研究」に係る海外派遣交流経費が、また情報処理関係設備として「電子計算機システム」の2件が採択されました。

愛知県からの経常費補助金は、97万1千円でした。この補助により、教育研究設備の充実が計られました。

■平成7年度国庫金等補助金交付状況一覧■

補助金名	件数	補助金交付金額
科学研究費補助金	13件	11,800(千円)
内訳		
国際学術研究	1件	2,000
試験研究B	1件	1,700
一般研究B	2件	1,400
一般研究C	7件	5,000
奨励研究A	2件	1,700
私立大学等経常費補助金特別補助	2件	35,470
内訳		
高度化推進特別費	1件	400
情報処理関係設備	1件	35,070
愛知県経常費補助金		971
合計		48,241

MY VOICE

輝かしい春が来て

95D102 日比和彦
(御津高校出身)



入学してはや半年以上たつ。ちょうど一年前、大学受験のため、がむしゃらに勉強したのがふと頭の中によぎることがある。あの頃は「月月火水木金土」であった。この言葉は祖父母の時代のものであるが、まさにその時のようだった。

その結果、輝かしい春が来てあつと言う間に半年が過ぎた。今ではだいぶ大学生活にも慣れ、楽しいキャンパスライフを送っていると思う。

また、各方面からの友達が大量で、いろいろな物事の違いを見聞きすることによって、いかに自分が「井の中の蛙」であったことかということが実感できた。

これから3年間、勉学に励み、よりいっそう見聞を深めようと思う。そして、楽しい大学生活を送りたい。

奥深い専門分野

95M067 北野照子
(虎姫高校出身)



この大学に通いはじめて、もう半年以上が過ぎました。今までとは違って、いろいろな人たちがいて、いろんな友達ができ、学ぶことも多く、楽しく過ごせることをうれしく思っています。

授業科目は多く、一つ一つが専門的で難しく、コンピューターや実習など、初め

てふれるものも多くて、改めて専門分野の奥の深さを知りました。

初めて親元を離れ、一人で暮らして、生活の大変さや両親の存在の大きさを実感しました。そうは言っても、何の束縛もなく、自分の判断に任される自由な生活のなかで、今できること、今しかできないことや、今やるべきことを十分にしたいと思っています。

大学をフルに活用して、この大学でしか学べないことを学び、自分が本当に何をやりたいのかということだけでなく、自分に何が向いているのかということを見つけていきたいと思っています。

そしていつか、この大学で学べたことを誇れ、自分自身をも誇れるような自分でありたいと思っています。

それから、今こうしていただけることを、両親に感謝したいと思っています。

キャンパス見学会

ミニ講義や個別相談コーナー

高校生を対象とした秋のキャンパス見学会が10月14日(土)13時30分から滝春校舎にて開催され、91名の生徒やその父母らが参加しました。

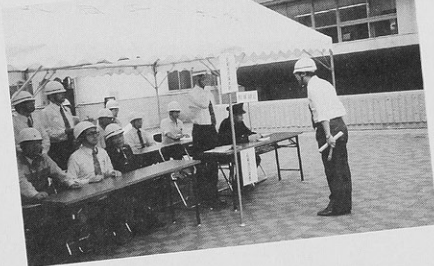
内容としては、「工学の魅力」を肌で感じていただくことをテーマに、まず工学の楽しさ・面白さについて松浦副学長の「講演」をはじめ、学科別のミニ講義や入試・授業内容・就職状況・学生生活・在学生による何でも相談などの個別相談コーナーを設けましたところ、参加者たちは熱心にミニ講義を聴き、また個別相談コーナーにおいては活発に質問を行うなど盛況のうちに無事終了しました。

今回、秋のキャンパス見学会を初めて催しましたところ、東海4県をはじめ埼玉、石川、福井などの遠方からも多数の参加がありました。

来年度もさらに本学の良さを体験していただける場として開催の予定です。

防災訓練

参加者106名の大規模訓練



去る10月2日(月)に大同校舎において、参加者106名という大規模な防火訓練が行われました。

訓練内容は、119番通報・避難誘導初期消火等を実施しました。



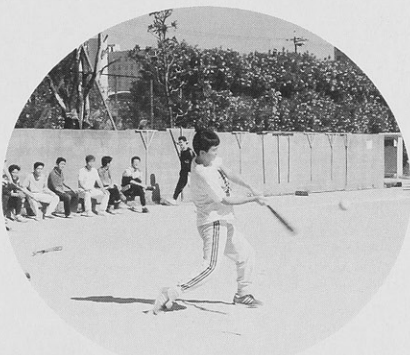
高校生とその父母91名が熱心に聴講

特に学長をはじめ教職員56名、学生・大学院生等50名が消火器を使用した消火訓練に真剣に取り組みました。

訓練終了後、南消防署・鎌田予防係長より「参加者全員が真剣に取り組み良い訓練であった。火災の際は、このようなスケジュール通りにはならないから、臨機応変の対応が必要となるので、この訓練を生かし、協力しあって被害を最小限に食い止めるよう心掛けたい」との講話をうけ、無事解散となりました。

体育大会

熱戦！秋空によい汗



澄み渡る青空の下、恒例の体育大会が10月20日(金)・21日(土)の両日、滝春グラウンドと体育館で開催されました。

午前9時の選手宣誓の後、グラウンドではソフトボールとサッカーが、体育館ではバレーボールとドッジボールの熱戦が繰り広げられ、約750名の学生たちや教職員が良い汗を流しました。

学生海外研修報告会

3名が成果など報告

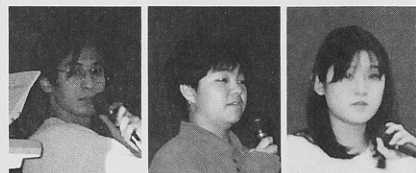
学術交流提携校へ大学院生を送り出す制度は、本学の学術教育基金の援助を受け、平成5年度に設けられました。

この結果、平成5年度に1名、平成6年度は、2名の大学院生が海外での研究活動を経験しました。

平成7年度は、英語研修も対象とした3名の学部学生と、大学院生の長期(10か月間)と短期(2か月間)各1名の合計5名がアメリカに渡りました。

昨年度の高柳伸一さん(大学院建設工学専攻)と今年度の井上登美子さん(機械工学科4年生)・松尾奈々さん(機械工学科2年生)の報告会が、10月30日滝春校舎にて開催されました。

この報告会は、平成8年度応募予定者も含め、多くの聴衆者を得、英語にて研修内容やその成果が報告され、その他経験したことなどが紹介されました。その後、次に続く学生への参考となることを願い、引き続き平成8年度の募集についての説明が行われました。



高柳伸一さん 井上登美子さん 松尾奈々さん

平成8年度 卒業研究テーマ一覧

先号に引き続き平成8年度の建設工学科の卒業研究テーマをお知らせします。

◆ 建設工学科 土木工学専攻 ◆

指導教員	主な研究課題テーマ
事口 壽男	◎超長大吊橋の動的・静的解析 ◎腐食疲労に関する破壊力学特性 ◎各種橋梁構造物の立体解析
水澤 富作	◎繊維強化型積層板の衝撃応答解析に関する基礎的研究 ◎平板・シェル解析のための数値解析法の開発と応用
酒造 敏廣	◎累積塑性ひずみに着目した変断面ラーメンの動的弾塑性性状に関する研究 ◎繰り返し水平力を受ける鋼変断面ラーメンの弾塑性性状
久保田 稔	◎水制周辺の河床変動について ◎CGによる河床変動の表示 ◎水制周りの流れ場の数値解析
下島 榮一	◎裸地蒸発と塩類集積の関係 ◎山地河川流域での雨水の流出過程 ◎浸透場での物質(水、化学物質)移動の仕組み
桑山 忠	◎超音波による石炭灰埋立地盤の締固め ◎地盤の超音波締固めに関する基礎実験 ◎土の間隙径分布と一軸圧縮強度との相関
大東 憲二	◎濃尾平野の地盤沈下防止と地下水管理 ◎掘削構造物建設時の地下水復水工法 ◎ボーリング孔を利用した透水実験の解析
青山 寛美	◎敷地調査図の作成とその属性の研究 ◎GISの手法による住み良い町の解析 ◎国土基本図を利用した路線計画について
舟渡 悦夫	◎「都市公園の利用実態」「交差点の交通処理対策の効果」など 都市計画、交通工学分野の実際的課題

◆ 建設工学科 建築学専攻 ◆

指導教員	主な研究課題テーマ
齋藤 辰彦	◎近距離地震に対するRC構造物の耐震性に関する研究
渡辺 雅生	◎構造力学の歴史 ◎木造建築の研究 ◎事務所建築の構造設計 ◎コンピュータによる構造設計 ◎耐震設計に関する研究
太田 福男	◎マイクロ波による鉄筋コンクリート構造物の劣化診断法に関する研究
山本 俊彦	◎鉄筋コンクリート造柱の耐震安定性 ◎超高強度コンクリートの初期強度発現 ◎コンクリートの施工品質管理 ◎床版振動
瀬尾 文彰	◎環境の文化特性に関する研究 ◎快適環境の構造に関する研究
笠嶋 泰	◎セルフエイド建築に関する考察 ◎1.5層型集合住宅の計画 ◎印象派の画家のための美術館
五島利兵衛	◎アーチ施工のフリーハンド工法実験 ◎ログハウスの研究
佐藤 達生	◎設計「台風ロード The Tale of Nature」 ◎アントニオ・ガウディーとカタロニアの建築
宮路 榮二	◎居住環境に関する調査 ◎日射・放射・蒸散の空気環境に対する影響 ◎教室の照度分布測定
稲垣 卓造	◎景観の色彩評価に関する研究(模型実験、実地評価による) ◎照明・色彩・環境心理に関する基礎的調査・研究

研究レポート

身近かな鉄原

名誉教授 横井時秀

本紙第10号('91・12月)で、中世までの製鉄の原料として、愛知県下では「鬼板」などと呼ばれる褐鉄鉱も利用したと思われることを述べています。その後も鬼板を鉄原として、人力送風の小形炉で製鉄する実験などを続けています。また、地元産の鉄原での製鉄研究のもととなった、この地方にある等身大の鑄鉄地藏尊のうち、熱田区金山の観聴寺の地藏尊像の手首と錫杖が、さきの戦災で失なわれていたので、実験の成果の地元産鉄材で修復し



図1 丘陵の裾にある田で赤水湧出

て奉納することができました。(1)

'93年夏、知多半島の中程にある武豊町富貴の丘陵の古窯群の近くで、ウスガイト(薄里)遺跡という鎌倉～室町期と予測される集落群跡で、鉄の加工が行われたと思われる、加熱炉跡・炉壁・鉄滓(表1)・平形ルツボ状の遺物などと共に、イボキサゴなどの小形の巻貝を含む、貝殻の集積坑が数ヵ所発掘され、同時に、鉄釘・刀子なども発掘されましたので、この付近の土工用や農耕用の鉄工具を自作した鍛冶工房があって、鉄の精錬を始め製鉄までも行っていたのではないかと考えられました。(2)

知多半島では、常滑焼で有名な陶器用粘土などの原材料が各種採掘され、鑄物用山砂も全国有数の産地ですが、古くから、亜炭や磨き砂も採掘されています。これらが採掘される地層の中程に、5～50

図2 湿泥地より赤泥の採取



mmの鬼板(褐鉄鉱)の層が各地にありますので、この鬼板を利用すれば、地元産の鉄原として製鉄ができることは即報の通りです。

元来、知多半島は太古の頃、濃尾平野一帯が「東海湖」と呼ばれる広大な淡水湖の中程で、現在の伊勢湾側と三河側とが陥没したので、残留隆起して、50～80mの丘陵地となって半島を形成したものとされます。知多半島の南端近くの内海から野間・河和・武豊・常滑・半田から名古屋市東部を経て、瀬戸・多治見方面に連なる丘陵地帯は、東海層群と呼ばれる湖成性の堆積地層でできています。この地層は、局部的に常滑層とか武豊層とか呼ばれていますが、それらの地層の中に、黄土・青土などと呼ばれる含鉄地

層があります。これらの含鉄地層を通過した地下水が、丘陵地の裾部で自然湧水となって泉のように流れ出ている場所があります。それらのうちのいくつかは田畑の片隅で「赤水」と呼ばれて流れています。赤水の湧水は鉄分を0.1~0.3mg/kg含有しているものが多く(3)、時には2~3mg/kgの鉄分を含んでいるものもあります。この湧水でできた湿泥地では、300~500mmの赤泥層となっている場所があることがわかりましたので、現地を訪れて試料を採取しました。(図1・2)

採取した赤泥からは、300倍程度の拡大で、含鉄の湧水が空気による酸化だけでなく、草の根や鉄細菌による酸化でできたものを鏡視できました。(図3・4)

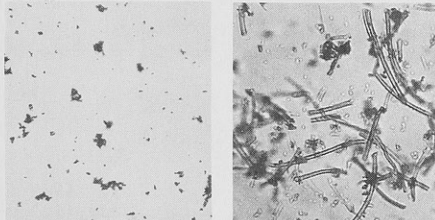


図3 空気による酸化鉄 (×350) 図4 赤泥中の酸化鉄など (×350)

この赤泥を天日乾燥し、薪火で焙焼したものは、殆ど全部ベンガラに相当する酸化鉄であることが判りましたので(表2)、小形炉で木炭による製鉄実験を行いました。

製鉄実験は、'95年11月3日から12月3日までの、武豊町立歴史民俗資料館の開館10周年記念特別展「知多の土で鉄ができた。」の付属行事として公開されました。処が、見学に来られた地元の方々のうちから「同じような赤水や赤泥がある」との情報が寄せられて、南知多付近だけでも8ヵ所の湧水と赤水・赤泥の発生地がありました。

これらの赤泥は、鬼板と呼ぶ褐鉄鉱の原始鉱物ではないかとも考えられます。同類のものは広く「湖沼鉄鉱」と呼ばれる水酸化鉄を主成分とするもので、地表近くで自成した製鉄原料であると思われます。先年訪問したスウェーデンでも、bog iron ore (沼鉄鉱)を採取して、10世紀頃までは、農夫炉と呼ぶ小形炉で製鉄をしていたとの展示を見て来ましたし、わが図書館在庫の文献(4)にもありますので、ストックホルム大学へ問い合わせました処、考古学教室の製鉄歴史担当より返信があり(5)スウェーデンの中部から南部にかけての湖沼地帯にある古い製鉄所跡からの製鉄原料の残留発掘物の見本などが数点送ら

れて来ました。これら沼鉄鉱は、有力な岩鉄鉱山が発見開発される以前の製鉄に使われていて、豊富な森林つまり木炭資源によるスウェーデン木炭鉄から優良なスウェーデン鋼の生産へと発展した頃を連想させるのに十分なものです。

知多半島で発見した赤泥は、火山地帯でみられる含鉄鉱水からの褐鉄鉱と違って、堆積地層からの2次的な含鉄湧水からの酸化鉄なので、身近にある良好な製鉄原料であろうと思われます。

参考

- (1) '92.3.20読売、3.23中日、3.25毎日の各新聞

- (2) '93.11.27中日、'94.3.3読売新聞
- (3) H7.7.24ほか 名古屋市衛生研究所で試験 ほか名古屋市大学大気水圏研究所で調査中
- (4) 吉村信吉著「湖沼学」、スミルノフ著「鉱床地質学」、ベック著「鉄の歴史」など
- (5) Dr. G. Magnusson: Dept. of Archaeology Stockholm Univ. ('95.11.17)

表1 ウスガイト鉄律(SD129) (%)

FeO	Fe ₂ O ₃	M·Fe	SiO ₂	Al ₂ O ₃	TiO ₂	CaO	MgO	MnO
54.25	33.68	2.00	5.66	0.74	0.05	0.26	0.14	0.08

表2 知多の赤泥 (%)

	FeO	Fe ₂ O ₃	SiO ₂	CaO	MnO	Ig.loss
乾燥赤泥	<0.10	64.25	6.75	0.08	0.09	28.25
焙焼赤泥	1.57	79.12				

教員の学外研究助成金・受託研究等について

平成7年7月から12月末までに本学の研究者への助成が決定した学外助成金及び民間企業等からの受託研究等は次のとおりです。

【学外研究助成財団等からの研究助成金】

学外の研究助成財団などからの研究助成金です。全国から多数の研究者が応募するので、採択されるのはなかなか大変です。

助成機関	研究者	助成金額	研究テーマ
天田金属加工機械技術振興財団	中島浩衛教授	1,500千円	薄板材料のプレス加工における成形難易(余裕度)の評価法に関する研究開発

【共同研究】

ここでいう共同研究とは企業等と特定の研究テーマに関し共同で研究するものです。

相手機関	本学研究者	相手機関から提供を受ける経費	研究テーマ
一般企業	太田福男教授	500千円	コンクリート中の鉄筋の発錆進行状況の判定方法及び判定装置の開発に関する研究
一般企業	市古忠利助教授	未定	歯科、整形外科領域におけるバイオマテリアルの開発

【委託研究】

委託研究とは企業等から特定の研究テーマに関し研究を委託されるものです。

委託者	研究担当者	受託研究費	研究テーマ
新技術事業団	和田隆夫教授	3,000千円	電子ビーム結晶成長法
一般企業	市古忠利助教授	700千円	セラミックス押出しハニカム成形品の製造に関する研究
一般企業	市古忠利助教授	実費	開発原料の物性評価
一般企業	中島浩衛教授	500千円	中厚鋼板の非対称圧延における形状特性に関する研究
一般企業	中島浩衛教授	500千円	熱間圧延におけるワークロールの表面損傷に関する研究
一般企業	桑山 忠教授	1,500千円	排水性舗装機能回復システムに関する研究開発

【奨学寄付金】

企業等から研究活動への寄付です。

寄付機関	寄付の対象研究者	寄付金額	備考
一般企業	瀬尾文彰教授	500千円	地域再開発分野の研究活動に対して
一般企業	近藤芳孝教授	200千円	研究活動に対して
一般企業	中村 肇教授	300千円	

INFORMATION

図書館

○卒業予定者の図書貸出及び返却について

3月に卒業を控えた皆さんは、卒業研究などで忙しいことと思います。図書館は最後まで皆さんの研究を応援しています。必要な文献、知りたい情報があるときは、図書館にご相談下さい。

ここで、卒業予定者の図書貸出についてお知らせしたいと思います。貸出の最終返却期限日は3月19日(火)です。3月5日(火)までの貸出期間は通常と同じ2週間後までですが、それ以降は一律3月19日(火)までとなります。学位記授与式まで延滞することのないようお願いいたします。

卒業までに研究が無事終了できるよう、がんばって下さい。



日本育英会 奨学生の皆さんへ

在学中に貸与された奨学金は、社会に出てから年間計画にそって返還しなければなりません。返還された奨学金はそのまま後輩奨学生への奨学金となりますから、「借りたものは必ず返す」という当たり前のことが実行されなければ、この制度の運営に著しい支障をきたすことになります。

本学でも毎年、12月はじめにこれから返還を始める4年次生の奨学生を対象に奨学金返還説明会を開催し、借用証書の記入作成、卒業後の諸手続についてガイダンスを行い、喚起しています。

現在、奨学金の貸与を受け、在学中の恩恵を受けている皆さんには、卒業後社会に対する責任が待っているということを肝に銘じておいて下さい。

学位取得

おめでとうございます

伊藤昇一助教授(機械工学科)



平成7年12月7日付
で名古屋大学から博士(工学)の学位を取得
学位論文「激点平面壁
近傍における超過エンタ
ルピ希薄燃料の実験研究」

人事

◇異動◇ () 内前職

〈平成7.8.30付〉 ●事務局長事務取扱兼総務部長事務取扱/小野二郎(総務部長) ●企画室長事務取扱兼学務部長事務取扱/野村秀樹(企画室長兼学務部長)

〈平成7.11.1付〉 ●企画室次長兼企画調査課長兼総務部調査役兼学務部次長兼学務課長/武田洋二(企画室次長兼企画調査課長兼学務部次長兼学務課長)

〈平成8.1.1付〉 ●国際交流センター事務室嘱託職員/岡戸裕子(庶務課嘱託職員)

◇交替◇ () 内前任者

〈平成7.10.16付〉 ●一般教養主任/曾我静男教授(瀬川重男教授) ●機械工学科主任/中島浩衛教授(酒井義文教授)

●電気工学科主任/高田和之教授(日置義明教授) ●建設工学科主任/五島利兵衛教授(下島榮一教授) ●応用電子工学科主任/和田隆夫教授(金児壮至教授) ●大学院機械工学専攻主任/小野宗憲教授(西堀賢司教授) ●大学院電気・電子工学専攻主任/三品善昭教授(加藤哲男教授) ●大学院建設工学専攻主任/太田福男教授(五島利兵衛教授)

◇解任◇

〈平成7.11.30付〉 ●副学長/進藤謙之助(外国語教室教授)

◇退職◇ () 内前職

〈平成7.8.29付〉 ●大江哲也(本部事務局長)、〈平成7.10.31付〉 ●中村多詠(国際交流センター事務室嘱託職員)、〈平成7.12.31付〉 ●貝谷功三(工作実験実習室嘱託職員)

編集後記

学園広報紙として本紙が皆さまとの交流のかけ橋になれば幸いです。

平成8年度入試日程のお知らせ

これから間に合う本学の入試をお知らせ致します。

〔学部〕の学生募集案内

後期入学試験(募集定員:60名程度)

《入試日程》

出願期間	試験日	合否発表	手続き締切日
2月19日(月) ～2月29日(木)	3月13日(水)	3月19日(火)	3月27日(水)

〔注〕 ①願書受付:郵送で締切日必着。

②試験会場:本学・東京・静岡・松本・金沢・大阪・広島・高松で実施。

《選考方法》数学は必須、外国語・理科(物理・化学)から1科目選択の2科目試験です。

〔大学院〕の学生募集案内

専攻名	出願期間	試験日	合否発表
工学研究科 修士課程	2月12日(月) ～2月19日(月)	2月28日(水)	3月5日(火)
工学研究科 博士後期課程		2月27日(火)	

※問い合わせ先:大同工業大学 広報室 TEL052-612-6117(直通)